

令和7年8月19日

課 名 教育委員会事務局

教育改革課

担当者 課長 今川

内 線 4892

新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について

1 要旨

令和7年度入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度（以下「新制度」という。）について、公立中学校・高等学校等を対象に実施したアンケートの結果等を踏まえ、成果と課題を整理した。（詳細は別添のとおり）

2 背景

- 「広島県の15歳の生徒にどのような力を付けさせたいか」という観点から、公立高等学校入学者選抜制度の改善を行うこととし、令和5年度入学者選抜から実施している。

【広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力】

- 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力

【新しい入学選抜制度のポイント】

- ① 主体的な志望校選択の実現
 - ・各高等学校の学科・コースの特色に応じて、「特色枠による選抜」を実施
「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を各高等学校が設定可能
 - ・傾斜配点、活用教科の設定、学校独自検査を各高等学校が実施可能
 - ・一般枠による選抜の配点の比重は「一般学力検査：調査書：自己表現＝6：2：2」
 - ・教育目標や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートを全校が公表
- ② 調査書の簡素化
 - ・調査書に記載する内容は「学習の記録（評定）」のみに変更
欠席日数、教員の所見欄（特別活動の記録、スポーツ・文化・ボランティア活動の記録等）などは削除
 - ・学習の記録（評定）の学年間の比重は「第1学年：第2学年：第3学年＝1：1：3」
- ③ 入学者選抜に係る期間の短縮
 - ・選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、「一次選抜」として実施
 - ・一次選抜を2月下旬に実施（旧選抜（Ⅰ）は2月上旬、旧選抜（Ⅱ）は3月上旬実施）
- ④ 受検者全員に「自己表現」を実施
 - ・受検者全員に自分自身のことを表現する「自己表現」を実施

○ 検証のためのアンケート

- ・ 実施時期：令和7年5月～6月
- ・ 対 象：併設型中学校を除く全公立中学校等（226校）
一次選抜を実施した全公立高等学校（87校）
全市町教育委員会（23市町）
公立高等学校第1学年生徒（14,155人のうち10,868人が回答）

3 概要

- ・ 自己表現の実施により、中学校において、生徒が自己の振り返りや今後の生き方を考えるきっかけとなっている、進学後のイメージを早い段階で持つことができたという意見がある。高等学校においても、自己表現によって自分自身が高等学校で学ぶイメージや強みを整理することで、能動的に高校教育を受けることができるという意見もある。一方で、令和5年度から新たに受検者全員に自己表現が導入されたことで、受検者及び中学校の教員並びに高等学校の教員にとって負担があるという意見が、中学校・高等学校それぞれのアンケート結果にあることから、どのように負担軽減を図ることができるのか検討を行う必要がある。
- ・ 調査書については、記載する内容は学習の記録（評定）のみとし、欠席日数の記載や所見欄を削除するなど簡素化を行ったことにより、中学校においては欠席日数の多い生徒が安心して受検することができたとの意見がある。
- ・ 「特色枠による選抜」について、各学校の学科・コースの特色に応じた選抜として実効性が高まるよう、実態を把握し、必要に応じて高等学校への働きかけや特色枠の枠組等の改善を図る。
- ・ 一次選抜の日程について、様々な立場の考え方があり、総合的に判断する必要があることから、市町教育委員会、知事部局、公立・私立高等学校及び中学校関係者と連携し、継続的に検討する。

新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について

令和7年8月19日
広島県教育委員会

1 はじめに

本県では、「広島県の15歳の生徒にどのような力を付けさせたいか」という観点から、公立高等学校入学者選抜制度の改善を行い、令和5年度入学者選抜から実施している。また、令和6年度入学者選抜の成果と課題を検証した結果を受けて、令和7年度入学者選抜では運用上の改善を図るとともに、一部の課題については継続的に検討することとしたところである。

この度、令和7年度入学者選抜（秋季入学のための選抜を除く。）を実施したことを受けて、公立中学校・高等学校等に対して実施したアンケートの結果等を踏まえ、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について整理した。このまとめを踏まえ、今後も引き続き、よりよい公立高等学校入学者選抜の実施に努めてまいりたい。

【広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力】

- | |
|--------------------------------|
| ○ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力 |
|--------------------------------|

【新しい入学者選抜制度のポイント】

- | |
|---|
| <p>① 主体的な志望校選択の実現</p> <ul style="list-style-type: none">・各高等学校の学科・コースの特色に応じて、「特色枠による選抜」を実施・「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を各高等学校が設定可能・傾斜配点、活用教科の設定、学校独自検査を各高等学校が実施可能・一般枠による選抜の配点の比重は「一般学力検査：調査書：自己表現＝6：2：2」・教育目標や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートを全校が公表 <p>② 調査書の簡素化</p> <ul style="list-style-type: none">・調査書に記載する内容は「学習の記録（評定）」のみに変更・欠席日数、教員の所見欄（特別活動の記録、スポーツ・文化・ボランティア活動の記録等）などは削除・学習の記録（評定）の学年間の比重は「第1学年：第2学年：第3学年＝1：1：3」 <p>③ 入学者選抜に係る期間の短縮</p> <ul style="list-style-type: none">・選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、「一次選抜」として実施・一次選抜を2月下旬に実施 <p>④ 受検者全員に「自己表現」を実施</p> <ul style="list-style-type: none">・受検者全員に自分自身のことを表現する「自己表現」を実施 |
|---|

2 公立中学校・高等学校等に対するアンケートについて

(1) 目的

令和7年度入学者選抜において実施した「新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度」の検証のため、成果と課題について、公立中学校・高等学校等にアンケートを実施した。

(2) 対象、期間及びアンケートの結果

ア 対象

併設型中学校を除く全公立中学校等、全公立高等学校、全市町教育委員会及び公立高等学校第1学年生徒

イ 期間

令和7年5月～6月実施

ウ アンケートの結果

別紙のとおり。

3 成果と課題について

(1) 主体的な志望校選択の実現について

(実施内容シート)

高等学校第1学年生徒に対して、「志望校を選択する際に、影響を与えたもの」を聞いたところ、アンケートに回答した者の81%が、「教育目標や育てたい生徒像」など実施内容シートに含まれる情報を基に志望校選択を行っている。

実施内容シートの取扱いについては、中学校の83%が、進路相談等において実施内容シートを生徒に提示していると回答し、高等学校第1学年生徒の65%が、中学校で実施内容シートの紹介はあったと回答している。

中学生の一層の主体的な志望校選択の実現のため、中学校内の進路ガイダンスや進路学習等で、実施内容シートの紹介や比較する活動等を行っていただくよう、進路指導主事研修等で働きかけをしているところであり、引き続き中学校と連携を行っていく必要がある。

(特色枠による選抜)

特色枠による選抜については、特色枠を設定している高等学校のほとんどが、特色枠による選抜の内容について、中学校や中学生・保護者に対して、オープンスクールや中学校訪問等で周知している。

高等学校からは、一般学力検査、調査書及び自己表現の配点の比重を設定することで、学校が求める生徒の確保や、受検者の出願行動につながっているという意見が見られる。

一方、定員に対して受検者が一定数いないと特色枠が実質機能しない、特色枠による選抜の結果が一般枠による選抜方法を当てはめた場合と変わらない、という意見が一部あることなどから、各高等学校の特色をより引き出すことができるように、各校における検討を促すとともに、県教育委員会としても、引き続き実態を把握し、改善をしていく必要がある。

(2) 調査書の簡素化について

調査書について、記載する内容は学習の記録（評定）のみとし、欠席日数の記載や所見欄を削除するなど簡素化を行ったことにより、中学校においては欠席日数の多い生徒が安心して受検することができたとの意見がある。

一方、高等学校からは、入学者の情報として欠席日数等が得られなくなったことを課題とする意見があることから、入学者選抜後に実施している中高連携の実態を把握し、実施時期や在り方等を検討していく必要がある。

(3) 入学者選抜に係る期間の短縮について

期間を短縮したことにより、教育活動の充実につながることができたかという設問に対して、高等学校の55%、中学校の69%が、肯定的に回答している。理由としては、中学校及び高等学校ともに、従来の選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合したことにより、入学者選抜業務が集約され、教員の負担の軽減につながり日々の教育活動の時間に費やせたという意見がある。

一方、2月下旬に実施している一次選抜の時期については、高等学校の約66%が受検者の確保や大学入試等との時期の重なりを避けることを理由として2月中旬以前を希望し、中学校の約94%が授業時数の確保や学習へのモチベーションの維持を図りやすいことを理由に2月下旬以降を希望している。選抜日程の在り方については、それぞれの立場で意見が異なっており、引き続き検討を行っていく必要がある。

(4) 受検者全員に「自己表現」を実施

(自己表現)

高等学校第1学年生徒でアンケートに回答した者の94%が、「自己表現について、検査当日に、自分なりに表現すること」が、「十分にできたと思う」又は「それなりにできたと思う」と回答しており、自己表現の出来に関して手ごたえを感じている受検者が多く、受検者の達成感につながっていると推察される。また、自己表現の実施により、中学校において、生徒が自己の振り返りや今後の生き方を考えるきっかけとなっている、進学後のイメージを早い段階で持つことができたという意見があった。高等学校においても、自己表現によって自分自身が高等学校で学ぶイメージや強みを整理することで、能動的に高校教育を受けることができるという意見があった。

一方で、令和5年度から新たに受検者全員に自己表現が導入されたことで、受検者及び中学校の教員並びに高等学校の教員にとって負担があるという意見が、中学校・高等学校それぞれのアンケート結果にあることから、どのように負担軽減を図ることができるのか検討を行う必要がある。

(自己表現の評価)

自己表現の評価については、評価の観点の評価基準と合わせて全校共通としたこと、評定は4点を基準とし、評価の観点ごとに5点、4点、3点のいずれかで評価することとしたことにより、高等学校の80%が、校内での評価基準の統一に役立ったと肯定的に回答している。

一方で、一部において評価の難しさや検査官による評価のずれが生じるという意見もあることから、県教育委員会として評価に係る資料のブラッシュアップを行い、高等学校における研修を充実させるなどして、理解の徹底や各高等学校の評価基準の精度の向上を図っていく。

(自己表現カードの廃止)

自己表現カードについては、令和7年度入学者選抜において、受検者及び高等学校の負担軽減を図る観点から、自己表現カードの作成及び提出を行わないこととした結果、受検者の負担軽減の効果については、高等学校の95%、中学校の92%が、肯定的に回答している。なお、カードが廃止されても、タブレットや他の紙媒体など他の資料の持ち込みによる代替が可能であるため、自己表現の実施に不都合はなかったということであった。

また、高等学校における負担軽減の効果についても、90%が肯定的に回答している。理由としては、自己表現カードを複写し、会場ごとに仕分けして受検者と検査官へ手交するなどの職員が事前に行っていた業務が減り、負担軽減になったという意見があった。

(質問の在り方)

自己表現の検査における質問については、令和6年度入学者選抜から、受検者の自己表現を一層引き出し、自己表現の充実を図る観点から、実際の自己表現の内容に即したやり取りとなるよう取り組んでいる。

このことについて、高等学校の56%が、検査官からの質問は、受検者が実施した自己表現の内容を補うことに役立ったと肯定的に回答している。一方で、限られた時間の中で、受検者の自己表現の内容を補足する質問の難しさについての意見もあり、これまでの入学者選抜の経験を生かして、高等学校における研修を充実させるなどして精度の向上を図っていく必要がある。

4 今後の改善について

- 「特色枠による選抜」について、各学校の学科・コースの特色に応じた選抜として実効性が高まるよう、実態を把握し、必要に応じて高等学校への働きかけや特色枠の枠組等の改善を図る。
- 一次選抜の日程について、様々な立場の考え方があり、総合的に判断する必要があることから、市町教育委員会、知事部局、公立・私立高等学校及び中学校関係者と連携し、継続的に検討する。

新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について ～高等学校に対するアンケートの結果～

令和7年度広島県公立高等学校入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について、高等学校に対して行ったアンケートの結果は、次のとおりである。

■ アンケートの期間及び校数

令和7年5月26日（月）から令和7年6月25日（水） 一次選抜を実施した公立高等学校全87校

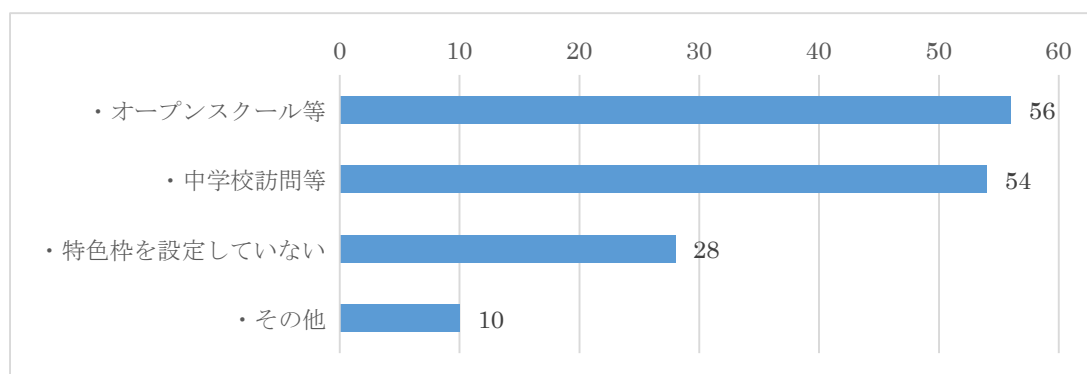
■ アンケートの設問及び結果

§ 1 主体的な志望校選択の実現

◆ 各高等学校が、学科・コースの特色に応じて実施する「特色枠による選抜」について

- 1 各高等学校が、特色枠による選抜により、「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を設定したり、傾斜配点や活用教科を設定したりすることができるようにしました。

特色枠による選抜の内容について、中学校や中学生・保護者に対してどのように周知していますか。（複数回答可）



- 2 1で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。

- ・ 学校のホームページによる公開のみ
- ・ 塾主催の高等学校説明会、オンライン説明会

- 3 「主体的な志望校選択の実現」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。（主な回答）

- 特色枠は各校がどのような人材を求めているのかが中学生にメッセージとして伝わる。本校は育てたい生徒像を示すなかで、意欲ある生徒を募集して定員を確保できた。
- 特色枠において、調査書の比重を高めていることによって、当日の学力検査だけでなく普段からの学習努力が認められるため、日頃から真面目に学校生活を送っている生徒が出願しやすくなった。
- 募集人数に対して、受検者が一定数いないと特色枠が実質機能しない。
- 特色枠で合格した受検者が一般枠での合格者の中にすべて含まれており、特色枠を設定した意図が薄れるのではないか。
- 「特色枠」という制度自体は良いが、学校の独自性を出すのであれば、特色枠の内容や一般枠との順番も各校に決めさせてもらえれば、より特色が出せると考える。

§ 2 調査書の簡素化

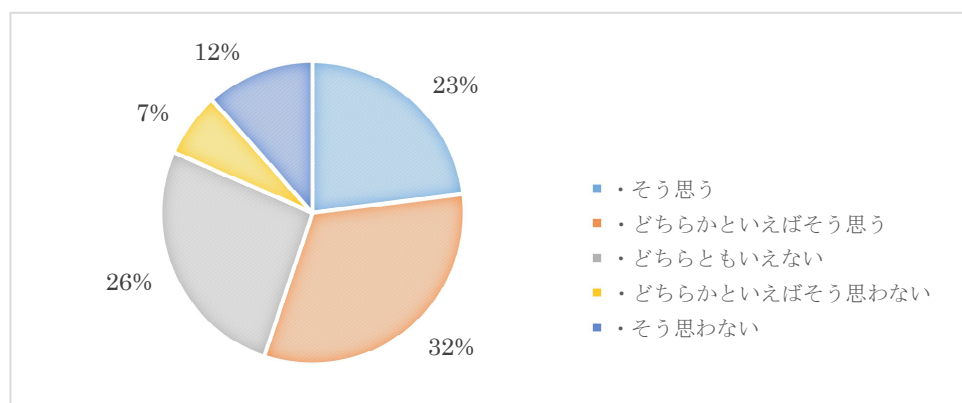
4 「調査書の簡素化」について、成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

- 評定のための数値による客観的な評価が可能となり、公平性が確保された。
- 必要な情報のみの記載となっており、調査書の転記等の際の確認もしやすかった。
- 早期に入手しておいたほうがよい入学者の情報（欠席日数等）が入手できなくなった。

§ 3 入学者選抜に係る期間の短縮

5 令和5年度入学者選抜より、2月上旬に実施していた選抜（Ⅰ）と、3月上旬に実施していた選抜（Ⅱ）を統合し、2月下旬に一次選抜を実施しました。

入学者選抜に係る期間を短縮したことにより、各高等学校において、授業時数の確保など、教育活動の充実につなげることができたと思いますか。

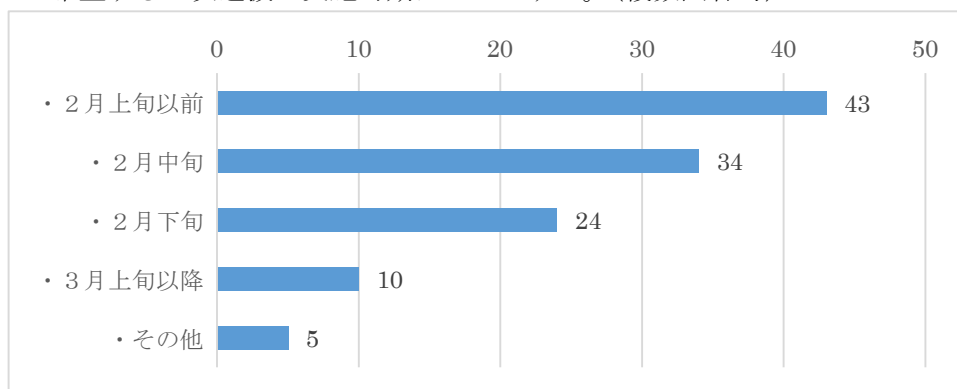


6 5で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 統合することにより、入学者選抜業務が集約され、授業時数の確保等で教育活動の充実につながった。
- 準備から実施までの業務が1回に削減されたことで、教員の負担軽減につながった。その分を日々の教育活動の時間に費やせた。
- 自己表現の実施に1～2日間、採点と点検作業・確認で2日間要するので1週間の自宅学習になるため、授業時数の確保につながっているとは思えない。
- 選抜が一回になったが、自己表現を全員に課しているため、研修や準備の業務で相殺されているように感じる
- 2月下旬から3月上旬の短期間で入試業務、学年末考査、卒業式が重なるため、むしろ授業時数の確保は難しい状況にあり、教育活動の充実につなげにくい。

7 一次選抜の実施時期を2月下旬としたことについては、公立・私立高等学校全体の入学者選抜の日程を踏まえて、中学校、高等学校など様々な立場の意見を勘案して設定しました。

希望する一次選抜の実施時期はいつですか。(複数回答可)



8 7で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。(主な回答)

- ・ 私立と公立の受検・手続きの関連を熟慮した日程
- ・ 私立高校の入試の前か同時期

9 7で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

(2月中旬以前)

- ・ 国立・私立の高等学校等の入試時期と同時期に実施するのが望ましい。
- ・ 国公立大学前期試験と日程の重なりを避け、在校生への指導に万全を期すため。
- ・ 入学者選抜、卒業証書授与式、年度末考査等を余裕を持って実施できるよう選抜時期を前倒しするべき。

(2月下旬以降)

- ・ 出願期間や3学期の行事を考えると2月下旬が適切であると思う。
- ・ 本校の卒業式が終わってからの入学者選抜実施を希望する

10 「入学者選抜に係る期間の短縮」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

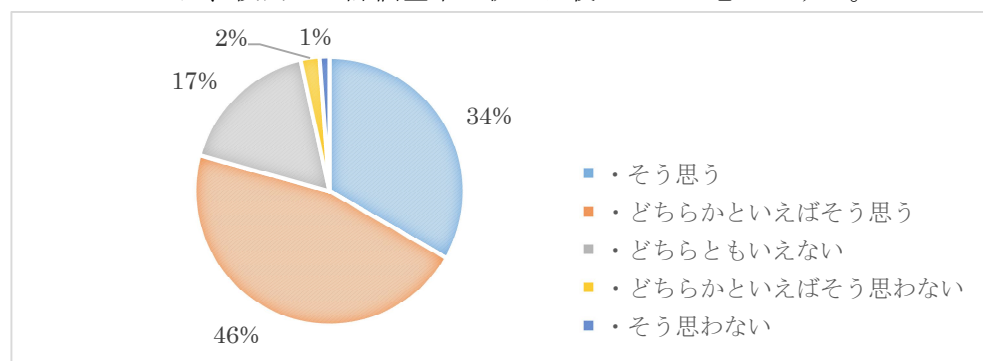
- 以前の入試制度では試験が2回(選抜Ⅰ、Ⅱ)であったが、新制度で1回となり受検生、高校側も負担は減ったと思われる。
- 近年、安全志向や早く進路を確定したいという考えから、私立高校の推薦入試希望者が増え、公立高校を受検しない生徒の割合が増えている。
- 選抜Ⅰ、Ⅱを一次選抜として整理されたことにより、選抜のための業務負担が多少軽減されたが、学力検査と自己表現によって2日必要となり、自己表現のための業務量を考えると負担感はある。また、学力検査を1日で実施することは、中学生にとっては負担感が大きいのではないかと思う。

§ 4 受検者全員に「自己表現」を実施

◆ 自己表現の評価・質問について

- 11 評価の観点を「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「表現する力」の三つとし、その評価規準と合わせて全校共通としました。また、評価は4点を基準とし、評価の観点ごとに5点、4点、3点のいずれかで評価することとしました。

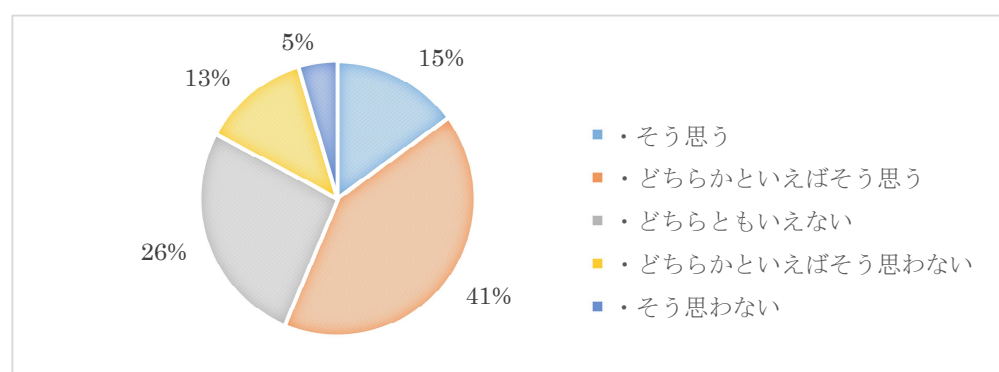
このことは、校内での評価基準の統一に役立ったと思いますか。



- 12 11で答えた具体的な理由等があれば記入してください。

- 各公立学校で統一的な取組を行うことによって学校間での大きな差が発生せず、検査官も落ちついて対応ができた。
- 校内研修で評価規準を用いて評価を行った。そのため校内での基準を揃えることができた。
- 基準が示されたことで、評価について大きな開きが出なかった一方、柔軟な評価が難しいと感じることがあったため。
- ある程度は評価基準の統一に役立っていると感じるが、どうしても検査官による評価のブレは生じてしまうと感じている。

- 13 自己表現の検査における検査官からの質問は、受検者が実施した自己表現の内容を補うことに役立ったと思いますか。

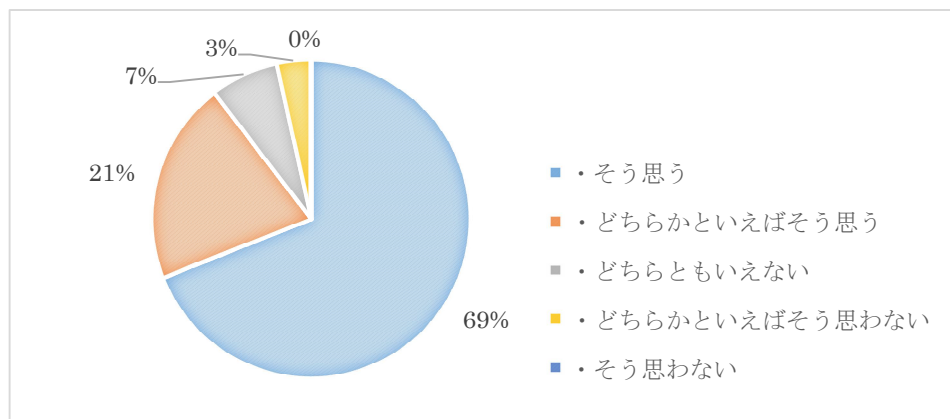


- 14 13で答えた具体的な理由等があれば記入してください。

- 内容を補完することができたため。
- 自己表現の内容について、焦点化して再質問ができることが評価のしやすさにつながった。
- 自己表現カードが手元になく、限られた時間の中で、受検者の自己表現の内容を補足するような質問ができるときと、できないときがある。
- 質問に制限があるため、同様の回答が多くあった。

◆ 令和7年度入学者選抜において自己表現で改善した点について

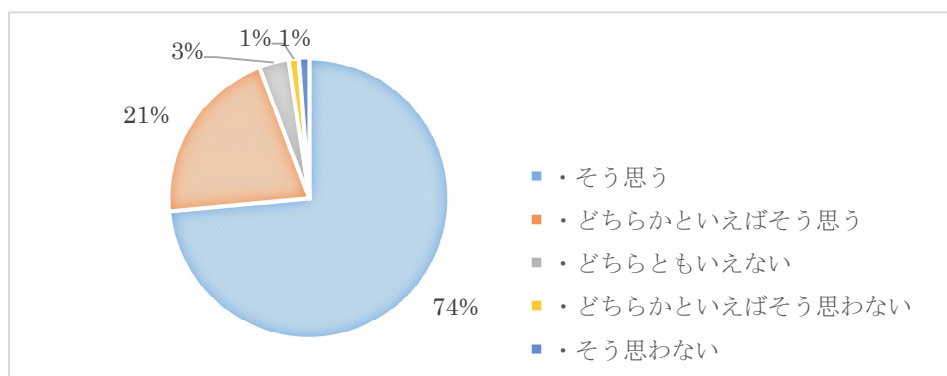
- 15 自己表現カードの作成及び提出を行わないこととしました。
このことにより、受検者の負担軽減を図ることができたと思いますか。



- 16 15で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 第1日の受検者の拘束時間が短縮され、身体的、精神的負担が軽減されたため。
- タブレットや紙媒体で中学校時代の実績を表現する生徒がほとんどであり、自己表現カードがなくても、本番の自己表現で行うアピールには影響しない。

- 17 このことにより、高等学校の負担軽減を図ることができたと思いますか。



- 18 17で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 自己表現カードの準備、作成後のコピー、自己表現実施前の受検者への返却等の作業がなくなり、大幅な負担軽減になった。
- どのように自己表現するのかが事前に把握できず、質問をその場で考えるなど負担がある。

- 19 自己表現カードの作成及び提出を行わないこととしたことについて、その他に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

- 受検者が使うためのものであるという認識ならば、そもそも検査当日に資料の持込を許可しているのでカードの作成・提出は不要であったと思う。

◆ その他全般について

20 「受検者全員に「自己表現」を実施」したことについて、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

- 広島県の公立高等学校への進学を希望する全中学生が、自分自身を振り返り、言語化する機会が設けられていることは、大変意義のあることだと考えている。自分自身が高等学校で学ぶことを明確にすることや強みについて整理することで、学習の主体者となり、能動的に高校教育を受けることができるものと思われる。
- 受検者一人一人が工夫して取り組んでおり、自己を見つめる機会となっていると感じた。
- 中学校3年間の取組を振り返り、「広島県の15歳の生徒に身に付けさせたい力」がどのくらい身に付いているかを、検査を通してみるができている。
- 現在の自己表現の評価方法では、自己表現(検査)によって大きく差がつかない点がメリットでもあり、デメリットでもある。
- 高校側の準備を含め運用面での業務負担が大きく、またそれによるミスリスクも高まる。

§ 5 その他

◆ 総括

21 入学者選抜全般について、上述以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

- インターネット出願システムが充実しており、入学者選抜業務の負担軽減につながっている。
- 昨今の人口減少により、各県立高校において、定員数を確保することは大変難しくなっている。定員数を大きく割り、閉校となっていくのであれば、公立高校の存在意義そのものがなくなる。私立高校が自校の生き残りをかけて様々なことを行っているように、公立高校も入学者選抜の時期や内容、高校教育目標・方針・内容等、大きな改革が必要である。
- 高校授業料全面無償化による公立高校離れが予想される中であって、広島県公立高等学校入学者選抜制度は見直しの時期にあると考える。特に自己表現については受検者、各高等学校にとって意義のあるものになるよう実施の有無も含めて検討をお願いしたい。

新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について ～中学校等に対するアンケートの結果～

令和 7 年度広島県公立高等学校入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について、中学校等に対して行ったアンケートの結果は、次のとおりである。

■ アンケートの期間及び校数

令和 7 年 5 月 26 日（月）から令和 7 年 6 月 25 日（水） 併設型中学校を除く公立中学校等全 226 校

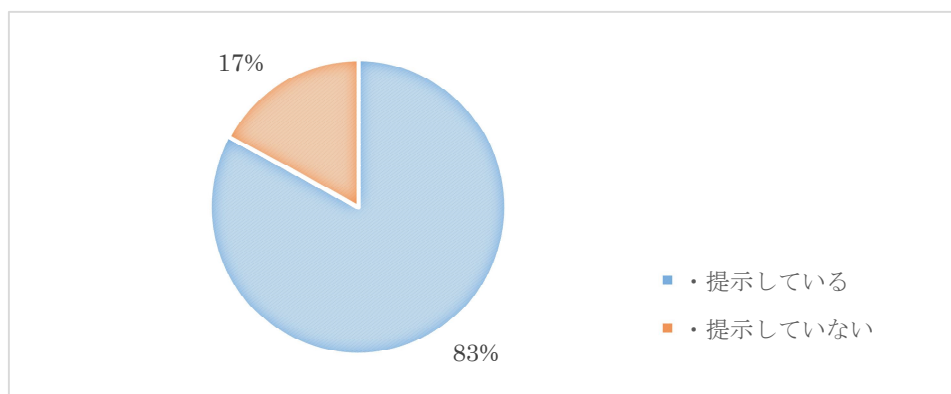
■ アンケートの設問及び結果

§ 1 主体的な志望校選択の実現

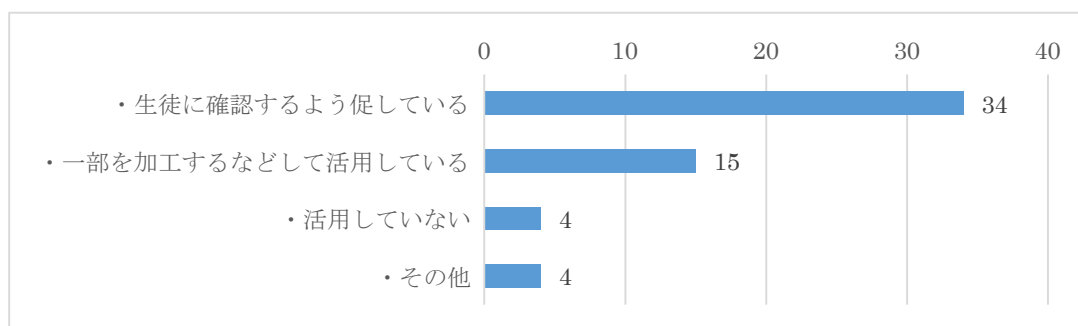
◆ 全ての高等学校・学科・コースにおいて、入学者選抜実施内容シートを公表したことについて

- 1 全ての高等学校・学科・コースにおいて、教育目標や育てたい生徒像、入学者受入方針や入学者選抜の実施内容を記載した入学者選抜実施内容シートを事前に公表しました。

生徒が志望校を選択する際に、貴校が実施する進路相談等において、実施内容シートを生徒に提示していますか。



- 2 1で「提示していない」を選択した場合、実施内容シートの活用状況について伺います。（複数回答可）



3 2で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。(主な回答)

- ・ 自己表現の内容に反映するように指導している。
- ・ 進路説明会で保護者に配付した。

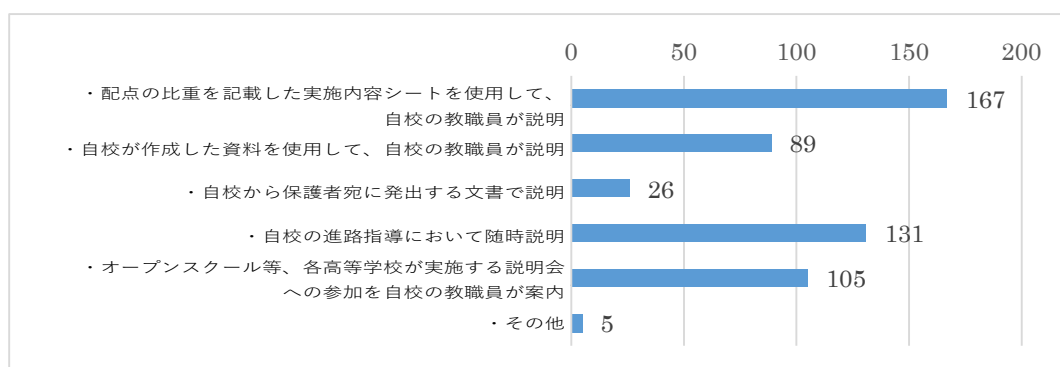
4 2で「活用していない」と答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- ・ 実施内容一覧表を印刷して配付した。
- ・ 併設型中高一貫校のため。

◆ 各高等学校が、学科・コースの特色に応じて実施する「特色枠による選抜」について

5 各高等学校が、特色枠による選抜により、「一般学力検査：調査書：自己表現」の配点の比重を設定したり、傾斜配点や活用教科を設定したりすることができるようにしました。

特色枠による選抜の内容について、貴校では中学生・保護者に対してどのように周知していますか。(複数回答可)



6 5で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。(主な回答)

- ・ 進路説明会において、生徒及び参加した保護者に対して実施内容シートの見方を説明。
- ・ 一覧になったものを配付して説明した。

7 「主体的な志望校選択の実現」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な内容)

- 実施内容シートの書式の統一によって高等学校の比較などが簡単にできるようになり、特徴が分かりやすくなった。
- オープンスクールでの体験と入学者実施内容シートを確認することで、具体的に志望校選択を考えることができています。
- やはり生徒は「この成績で進学できる場所はどこか」から始まるので主体的につながるかどうかは難しい。

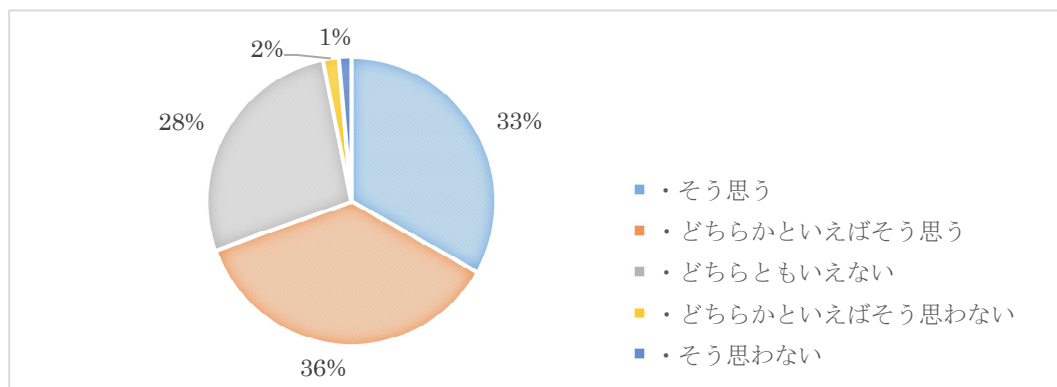
§ 2 調査書の簡素化

- 8 「調査書の簡素化」について、成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)
- 欠席日数の記載がなくなったことで、欠席日数の多い生徒が安心して進路について考え、自分の希望する学校を選択し、受検することができた。
 - 簡素化により調査書提出準備にかかる時間が削減されたことで、学習や自己表現などの進路指導に時間をかけることができた。
 - 欠席日数、係、委員、部活動の実績の入力がなくなったため、このようなことを頑張ってきた生徒の努力が反映されにくいと感じる。

§ 3 入学者選抜に係る期間の短縮

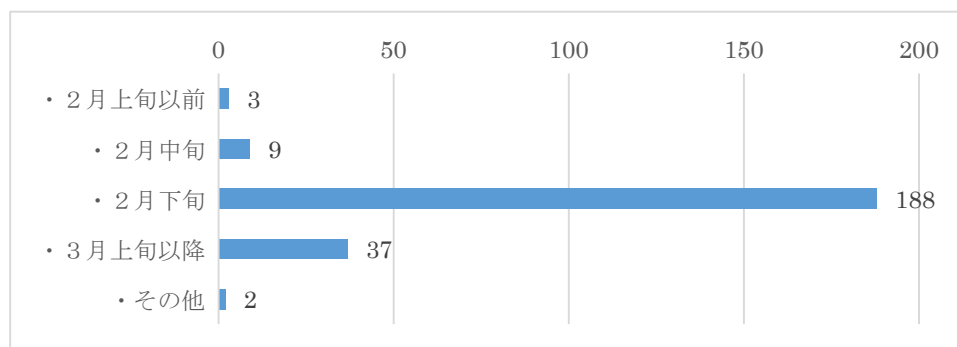
- 9 令和5年度入学者選抜より、2月上旬に実施していた選抜（Ⅰ）と、3月上旬に実施していた選抜（Ⅱ）を統合し、2月下旬に一次選抜を実施しました。

入学者選抜に係る期間を短縮したことにより、各中学校において、授業時数の確保など、教育活動の充実につなげることができたと思いますか。



- 10 9で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な理由)
- 選抜Ⅰの書類作成や指導にかかる時間がなくなった分、学習の充実等、生徒に還元することができた。
 - 2月上旬に実施していた選抜（Ⅰ）と、3月上旬に実施していた選抜（Ⅱ）が統合されたことで授業時数的にはかなり負担が減った。
 - 一次選抜の合格発表に合わせて卒業式の日時も早まっているので、トータルの授業時数の確保につながっているとは言い難い。
 - 進路事務については負担軽減につながったが、私立高校の推薦等もあるため、授業時数の確保などはほぼ変わらない。

- 11 一次選抜の実施時期を2月下旬としたことについては、公立・私立高等学校全体の入学者選抜の日程を踏まえて、中学校、高等学校など様々な立場の意見を勘案して設定しました。
希望する一次選抜の実施時期はいつですか。(複数回答可)



- 12 11で「その他」を選択した場合は、内容を具体的に記入してください。

- ・ 選抜Ⅱの時期が良い。

- 13 11で答えた具体的な理由等があれば記入してください。

(2月中旬以前)

- ・ 進路が決まった後での手続きをゆとりをもってできるため。

(2月下旬以降)

- ・ 早すぎると学習へのモチベーションが保てないため、時期は今のままで丁度よい。
- ・ 授業時数の確保、高校との連携などを踏まえると2月下旬が望ましいと思う。
- ・ 受検が終わってから卒業証書授与式までの間が短い方がよい。

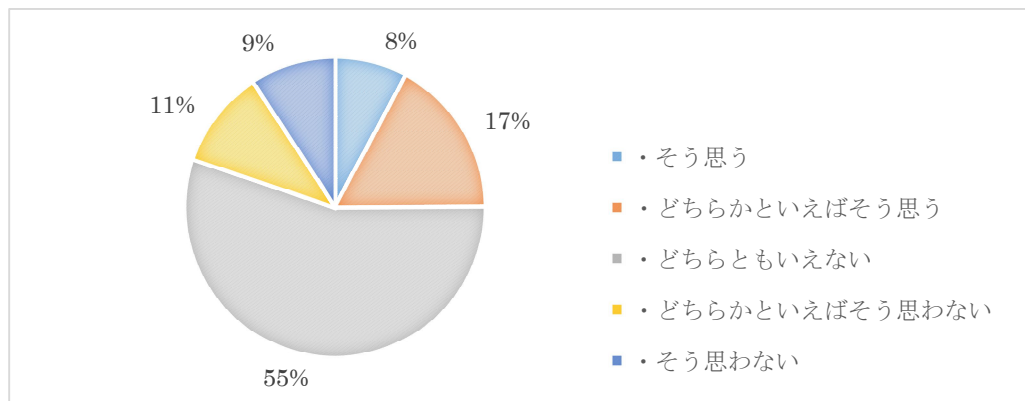
- 14 「入学者選抜に係る期間の短縮」について、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な回答)

- 統合したことで入試事務は減り、その分、他の業務に時間がとれた。

§ 4 受検者全員に「自己表現」を実施

◆ 自己表現の質問について

15 自己表現の検査における検査官からの質問は、受検した生徒から、実施した自己表現の内容を補うことに役立ったという声が出ていましたか。

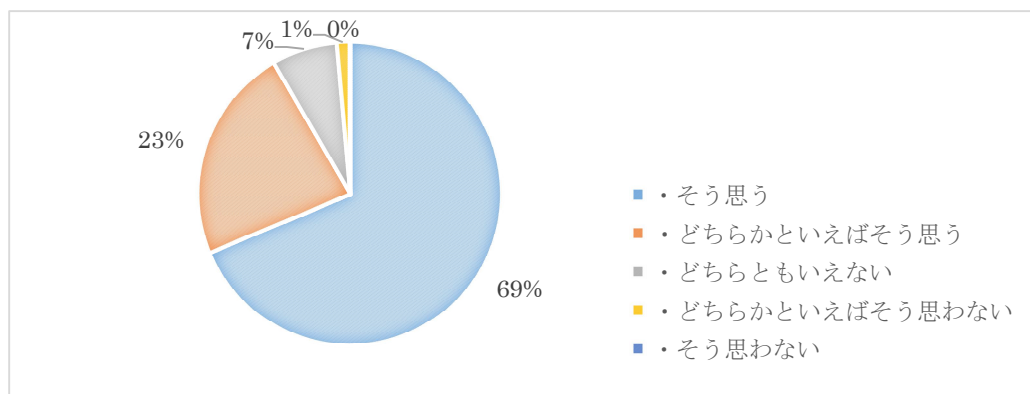


16 15 で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 自己表現で伝えた内容に対する質問が多かったと事後アンケートに記入する生徒が多く、質問された時に追加して表現できたと思っている生徒がいたため。
- 発表時間の中で、十分話したと思っている内容について質問され、困ることがあったようだ。

◆ 令和7年度入学者選抜において自己表現で改善した点について

17 自己表現カードの作成及び提出を行わないこととしました。
このことにより、受検者の負担軽減を図ることができたと思いますか。



18 17 で答えた具体的な理由等があれば記入してください。(主な回答)

- 5教科の試験に加え、自己表現カードの作成を行うことは生徒の負担が大きいため、負担軽減につながっていると考えから。
- 事前に準備したもので十分自己表現を行えていたから。

19 自己表現カードの作成及び提出を行わないこととしたことについて、その他に成果と課題等があれば記入してください。(主な意見)

- 指導の必要がなくなり、授業時数等の確保につながった。

◆ その他全般について

20 「受検者全員に「自己表現」を実施」したことについて、上記以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な意見)

- 自身のこれまでの活動(取組)を将来の夢や希望と照らし合わせながら振り返るとともに、今後の生き方を考えるきっかけになっている。
- なぜその学校に行きたいのかを全員が考え表現することで、次へ進むためのイメージが早い段階でついたと思われる
- 課題は指導する時間確保が難しいことと、採点基準が示されているが、満点の姿が分かりにくく、具体的な評価ポイントが分からないので指導が難しいこと。
- 受検勉強以外に割く時間が増え、生徒から負担に感じる声を聞く。
- 授業で自己表現の取組を行う時間を確保することが負担である。

§ 5 その他

◆ 総括

21 入学者選抜全般について、上述以外に成果と課題等があれば記入してください。(主な意見)

- インターネット出願システムの導入により、出願手続きが時間的・労力的にかなり簡素化された。
- 調査書の web 出願は、業務改善の点から非常によかった。
- 学力検査の日程について、5教科の検査を1日で行うことは受検生にとって負担が大きいと思われる。
- 自己表現の必要性を検討してもらいたい。

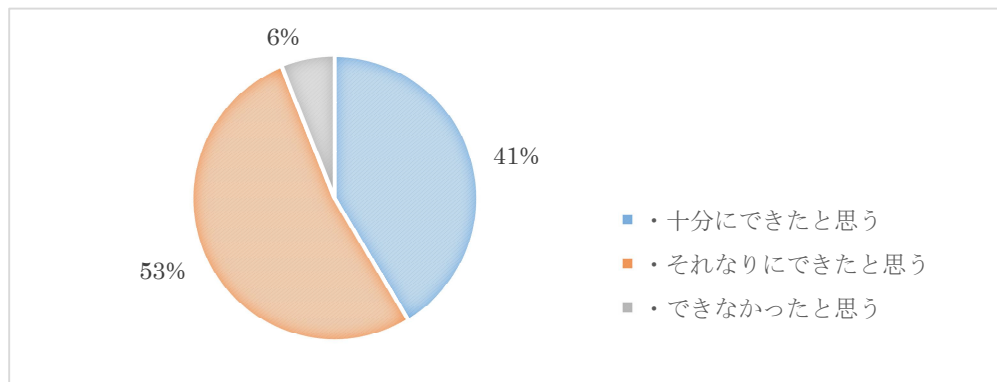
公立高等学校第1学年生徒に対する「自己表現」及び「実施内容シート」に係るアンケートの結果

【公立高等学校第1学年生徒（10,868人／14,155人：76.8%）】

自己表現について

1 自身が行った自己表現について

「自己表現」について、検査当日に、自分なりに表現することができたと思いますか。



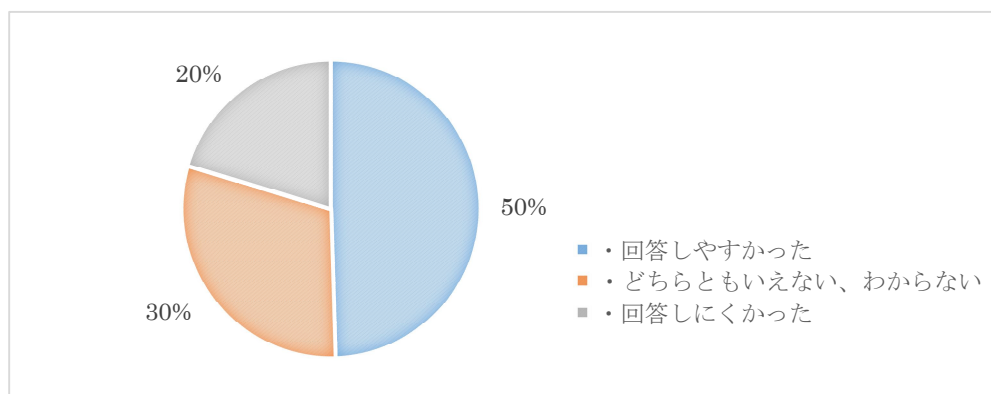
2 1で答えた具体的な理由等があれば記入してください。

- 私自身が中学校3年間で1番頑張ってきたことを試験監督に伝えることができたから。
- 練習通りに自分の表現したかったことがすべて表現することができたから。
- とても緊張してうまく話せなかったから。
- 時間配分がうまくいかなかった。
- 質問のときに質問内容に沿って答えることができなかったから。

自己表現後の質問・回答について

3 自己表現後の質問・回答について

自己表現後の質問は、回答しやすかったですか。



実施内容シートについて

様式第1号の1 (入学希望者実施内容シート【一次選抜】)

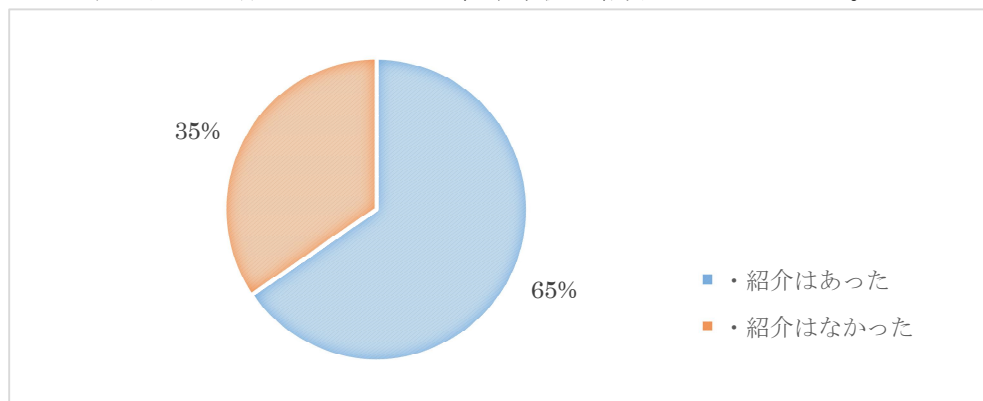
一次選抜

●●高等学校 ●●●課程 ●●学科 [] コース

教育目標		
育てたい生徒像		
入学希望方針		

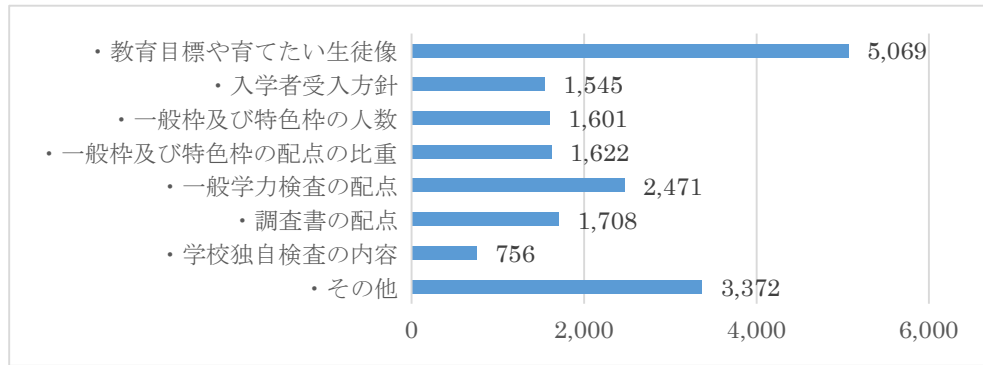
項目	内 容													
入学定員	— 人													
種 別	① 特色種 % (— 人)	② 一般種 % (— 人)												
割合 (人数)	— 般 学 力 検 査 課 外 課 自 己 表 現 学 校 抽 出 検 査 = : : : (600 200 200)	— 般 学 力 検 査 課 外 課 自 己 表 現 学 校 抽 出 検 査 = 6 : 2 : 2 : (600 200 200)												
配点の比重														
一般学力検査	一般学力検査 ☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 数学 ☐ 理科 ☐ 英語 一般学力検査に替えて自校作成問題により実施する学力検査 ☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 数学 ☐ 理科 ☐ 英語 点→ 点に換算 配点 <table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>数学</td> <td>理科</td> <td>英語</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	計						
国語	社会	数学	理科	英語	計									
実 施 内 容	点→600点に換算 ☐ 標準 ☐ 倍率配点・活用教科の設定あり <table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>数学</td> <td>理科</td> <td>英語</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	計						
国語	社会	数学	理科	英語	計									
評 定 量	点→ 点に換算 25 点→200 点に換算 配点 <table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>社</td> <td>数</td> <td>理</td> <td>英</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>225</td> </tr> </table>		国	社	数	理	英	計	25	25	25	25	25	225
国	社	数	理	英	計									
25	25	25	25	25	225									
自己表現	点→ 点に換算 点→200 点に換算 配点 <table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>数学</td> <td>理科</td> <td>英語</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	計						
国語	社会	数学	理科	英語	計									
学校独自検査	[分] [分] 点→ 点に換算 点→ 点に換算 配点 <table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>社会</td> <td>数学</td> <td>理科</td> <td>英語</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		国語	社会	数学	理科	英語	計						
国語	社会	数学	理科	英語	計									
特別事項	学校独自 提出書類 その他 ()													

4 上記の実施内容シートについて、中学校で紹介はありましたか。



5 志望校選択の判断材料について

志望校を選択する際に、影響を与えたものを次のうちから全て選んでください。(複数選択可)



※ 「その他」のみの回答者数 2,048 人

(その他)【抜粋】

- ・ 部活動
- ・ 家族からの勧め
- ・ 先輩からの勧め
- ・ 自宅からの距離等立地条件
- ・ 偏差値
- ・ オープンスクール
- ・ 友人からの勧め
- ・ 塾からの勧め
- ・ 進学率、就職率
- ・ 学科・コース、学ぶ内容
- ・ 学校の雰囲気
- ・ 学校行事
- ・ インターネット、SNS の情報

新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について ～市町教育委員会に対するアンケートの結果～

令和7年度広島県公立高等学校入学者選抜において実施した、新しい広島県公立高等学校入学者選抜制度に係る成果と課題について、市町教育委員会に対して行ったアンケートの結果は、次のとおりである。

■ アンケートの期間及び校数

令和7年5月26日（月）から令和7年6月25日（水） 全23市町教育委員会

■ アンケートの設問及び結果

§ 1 実施内容について

1 実施内容について、成果と課題等があれば記入してください。

ア 一般枠、特色枠（高等学校で実施した配点の比重、学校独自検査等）について（主な意見）

- 特色枠を設けたことで、各校がどのような生徒を求めているかを知ることができ、生徒が進路選択する上で貴重な情報となった。
- 高校側が、中学生の負担感が増大することを気にするあまり、学校独自検査の実施や思い切った配点の比重により特色を出すことを控え、同じような配点の比重（具体的には調査書重視の配点）となってしまう、改革の趣旨を反映しにくい状態になっている。

イ 調査書の簡素化について

- 調査書を転記する時間及び人為的なミスを防ぐ観点で大変良い。
- 中学校への登校状況等が高校側に伝わらないため、入試後に、より丁寧な連携が必要となっている

ウ 選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、一次選抜としたことについて

- 選抜（Ⅰ）と選抜（Ⅱ）を統合し、一次選抜とされたことで、余裕をもって計画を立て、入試事務を行うことができた。
- 公立高校の受検機会が一回になったことにより、私立高校への進学が進む一つの要因にもなっているのではないか。

§ 2 自己表現について

2 自己表現について、成果と課題等があれば記入してください。

ア 実際に受検者が行った自己表現の内容について（内容・実施時間等）

- 多くの中学生が前向きに自己表現に向き合っている。
- 各学校において、自己表現対策の過熱化が起こり、本来の趣旨とは異なる形で教育課程、働き方を圧迫しているのではないかとと思われる。

イ 自己表現の質問及び評価について

- 同じ質問ではなくなったことで、評価するには足りない部分について説明する機会を受検生に与えることができています。
- 評価規準が抽象的なため、評価者により評価が異なる可能性があること。

ウ 自己表現のタイムスケジュールについて

- 特になし
- 特になし

§ 3 日程・時程について

3 日程・時程について、成果と課題等があれば記入してください。

ア 一次選抜の日程（2月下旬に実施）について

- 中学校からは3月上旬、高校からは2月上旬を希望する声があるが、今の日程で大きな課題はないと考えている
- 一次選抜を実施する頃には、既に私立高校の入試結果が出ている状況であり、場合によっては、公立高等学校入学者選抜受検者数の減少に拍車がかかる日程とも言える。

イ 一次選抜の時程（第1日に5教科の学力検査を実施）について

- 第1日が学力検査のみになったことで、学力検査に集中できるようになった。
- 1日5教科の学力検査の実施は、生徒にとって厳しい日程となっている。

ウ 二次選抜等の日程・時程について

- 特になし
- 選抜等に係る日程については、引き続きできるだけ早期の周知をお願いしたい。

§ 4 その他

4 その他、入学者選抜全般について、成果と課題等があれば記入してください。

- ・ 併願制の導入など、志願者が希望する高校へチャレンジできる環境の検討が必要である。
- ・ 広島高等学校の受検日が、以前のようにほかの公立高等学校と異なれば、挑戦する生徒が増える可能性がある。